

## 音楽科学習指導案

3 年 3 組 阪本 薫子

## 1. 研究主題

未来そうぞうの資質・能力を育成する生成の原理による音楽授業

## 2. 単元名 「空き缶の音色を生かして音楽をつくろう」

## (1) 単元について

指導内容：〔共通事項〕 音色（空き缶の音色）、（副次的な指導内容：テクスチャ／漸増）

〔指導事項〕 A 表現（3）ア

教材：空き缶を用いた音楽づくりの活動

子どもたちはこれまで、様々な楽器と出会い、音楽づくりを経験してきた。音楽会では、竹楽器の音色を生かしてわらべうたの伴奏となるリズムパターンをつくり、イメージを伝えるために演奏の仕方を工夫する学習を経験している。

本単元では、子どもたちの身の回りにある空き缶の音色を探究し、見つけたお気に入りの音色を鳴らしながら交流することで空き缶の音色を知覚・感受し、その特質を生かして音色を組み合わせるイメージを表現することを体験できるようにしたい。

## 【柱 1：人と地域と音楽／音とのかかわり／身の回りの音】

空き缶は、子どもたちの生活に身近な存在であり、一度は手にしたことがある。缶を落としたり、つぶしたりというように、生活の中で、缶独特の音を耳にしていると考えられる。子どもたちの生活に身近な存在である缶を楽器とした音楽づくりでは、子どもたちは生活経験に根付いたイメージをもって、音楽をつくることができると考える。

## 【柱 2：音楽の仕組みと技能／日本伝統音楽／音色／いろいろな素材の音色／空き缶の音色】

空き缶は、様々な形や大きさ、素材のものがあ、いろいろな音色に出合うことのできる楽器となる。叩いたり、こすったり、へこませたりとさまざまな方法で簡単に音を鳴らすことができるので、試したい時にすぐさま音を鳴らしたり重ねたりすることができる。鳴らし方や素材の違いによって、様々な音色をつくり出すことのできる空き缶でたくさんの音色を探究し、その音色を組み合わせることで、空き缶の音色や漸増とイメージを結びつけながら音楽をつくることができると考える。

## 【柱 3：音楽と他媒体】

特になし

## (2) 単元の目標と評価規準

評価の観点	単元目標・評価規準	具体の学習場面の評価規準
観点 1： 音楽への関心・意欲・態度	○音色に関心をもって意欲的に音楽づくりを行う。	①音色に関心を持ち、意欲的に試したり、発言したりしている。 ★②音色を意識して表現の工夫を提案するなどし、意欲的に演奏している。
観点 2： 音楽表現の創意工夫	○音色を知覚・感受し、イメージが伝わるように工夫する。	★①音色について知覚・感受したことを発言したり、適切にカードやアセスメントシートに記述したりしている。

		★②音色を意識して、イメージが伝わるように表現を工夫している。
観点3： 音楽表現の 技能	○音色を意識し、イメージが伝わるように演奏する。	★①音色を意識してイメージが伝わるように演奏することができている。

★は主に学習成果をみる評価規準である。

### (3) 活動構成の仮説

**仮説：協働的实践力が発揮されるようにすることで、主体的実践力と創造的実践力も連動して発揮される。**

上記の仮説を具現化し、協働的実践力が発揮されるようにするための手立てを以下のように考えた。

1点目は、空き缶を教材とすることである。空き缶は叩いたり、こすったり、へこませたりと色々な方法で音を簡単に鳴らすことができるので、試したい時にすぐさま音を鳴らすことができる。「できるだけたくさん音を見つける」というめあてを持ち、空き缶で様々な音色を探究することで、「こんな音を見つけたよ」「その音どうやって鳴らすの?」というように、音を鳴らしながら会話が生まれると考えられる。子ども同士のかかわりが生まれやすい空き缶を教材とすることで、協働的実践力が発揮されるようにできると考えられる。

2点目は、中間発表の場を設けて、他のグループがどのような音色で演奏しているのかを聴くようにすることである。「どんなイメージを伝えているのかな」「どんな工夫をしているのかな」ということを探ることを共通の目的とする中間発表を通して、協働的実践力が発揮されるようにできると考えられる。

以上の2点を手立てに、協働的実践力が発揮されるようにすることで、連動して、「鳴らしてみたい音やイメージに合う新たな音を探そうとする（主体的実践力）」「音を聴いてもったイメージを出し合う中で、イメージが広まったり深まったりする（創造的実践力）」「自分とは異なる感じ方にふれたり、新たな表現の手がかりを得たりする（創造的実践力）」「得た手がかりをもとに、さらに表現の工夫を重ねる（創造的実践力）」といったことが実現されるのではないかと考えられる。

### 3. 単元計画（全3時間）

ステップ	学 習 活 動	時
経 験 ・ 分 析	○空き缶を鳴らし、いろいろな空き缶の音色を探す。 ○様々な音色を交流し、音色について知覚・感受し、自分のお気に入りの音色を選ぶ。	第1時
再経験	○グループで空き缶の音色を生かし、イメージを表す音楽を工夫してつくる。	第2時 (本時)
評 価	○つくった音楽を発表し、音色についてのアセスメントシートに答える。	第3時

### 4. 本時の目標

○グループで空き缶の音色を生かし、イメージを表す音楽を工夫してつくる。

5. 本時の展開（本時は2／3時間）

活動のねらい	子どもの活動	指導者の活動	評価
<p>再経験</p> <p>◆グループで、音色からイメージしたことをもとに音楽をつくることについて見通しをもたせる。</p> <p>◆お気に入りの音色のイメージをグループで共有し、順に重ねてイメージしたことをもとに音楽をつくらせる。</p> <p>◆他のペアの中間発表を聴</p>	<p>○グループで空き缶の音色を生かし、イメージを表す音楽を工夫してつくる。</p> <p>1. お気に入りの音色を順に重ねた音を聴き、どのようなイメージがするかを考え交流し、音楽づくりの見通しをもつ。</p> <div data-bbox="405 568 798 725" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>雨がポツポツふってきたから、体の小さな動物が走り出して、最後は落とし穴に落ちた感じがするな。</p> </div> <div data-bbox="405 739 798 833" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>大きな花火があがった感じがするな。</p> </div> <p>2. それぞれのお気に入りの音色を鳴らしてイメージを共有し、音色を順に重ねながら、どのようなイメージを表すことができるかを考え音楽をつくる。</p> <p>3. 中間発表をする。</p>	<p>●お気に入りの音をとりあげ、音を順に重ねて鳴らさせるようにする。</p> <p>●とりあげる音色について、カードに書かれたイメージを紹介し、「それぞれ違うイメージの音色を順に重ねて組み合わせるとイメージはどうなるかな。」と問い、聴き手には、どんなイメージがするかを考えながら聴かせ、交流させるようにする。</p> <p>●「こういうイメージがするように、もう一度鳴らしてみて」「このイメージを伝えるために、どんなことに気をつけるともっと伝わるかな」などと問い、表現の工夫を考えるようにする。</p> <p>●グループでお気に入りの音色を順に重ね、イメージしたことから題名を決めて音楽をつくっていくことを知らせる。</p> <p>●グループでお気に入りの音色を聴き合い、どんなイメージがするかを共有させるようにする。</p> <p>●音を鳴らして、お気に入りの音色を順に重ねて試し、どんなイメージがするかを話し合うようにする。</p> <p>●グループの音楽の題名が決まったら、自分たちのイメージが伝わるように演奏の工夫を考え、試すように声をかける。</p> <p>●新たな表現の工夫の手がかりを得させるために、適宜、クラス</p>	<p>★観点1-② （観察）</p> <p>観点2-② （観察）</p>

<p>き、新たな表現の工夫の手がかりを得させる。</p> <p>◆再度グループで、イメージを表すためにさらに演奏の工夫をさせる。</p>	<p>4. 中間発表をふまえて、グループでさらに表現の工夫をする。</p>	<p>全体やグループ同士で交流させるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●発表するペアには、グループの音楽の題名を伝えさせる。</li> <li>●聴き手には、発表を聴いてイメージしたことや気付いた工夫について述べさせる。</li> <li>●自分たちのイメージを聴き手に伝えるには、どのように工夫すればよいかを考えさせる。</li> </ul>	<p>観点 2-② (観察)</p>
--	---------------------------------------	---	------------------------

※本案は、次の指導案を参考に作成している。

- ・小島律子・関西音楽教育実践学研究会著(2010)『楽器づくりによる想像力の教育・理論と実践』東真理子氏の実践 pp55-61、黎明書房
- ・岡寺瞳 (2018)『学校音楽教育研究』第 22 卷「音楽づくりにおける子どもの目論見形成にみるイマジネーションの働き」でとりあげられた一弦箱の実践
- ・日本学校音楽教育実践学会 第 23 会全国大会 藤本佳子氏の発表 (2018)「問題解決としての音楽的思考におけるリフレクションの機能・思考の連続性に着目して-」でとりあげられた一弦箱の実践